

2. 開発をめぐるさまざまな考え方

* 開発とは経済成長なのか？（社会開発は？）

経済成長（Economic growth）：経済規模が継続的に拡大すること。多くの場合 GDP の成功率によって示される。生産活動を活発にし、雇用を増やすことで貧困の解消を目指す。

社会開発（social development）：社会のあり方が質的に変化する。より豊かな社会に向けての規模や考えかた、ライフスタイルの変化を示唆。

主要要素⁵：①人間優先的な開発諸分野の重視

- ② 性・人種・民族などの差別撤廃と人権強化
- ③ 開発への住民参加
- ④ NGO や市民団体とのパートナーシップ
- ⑤ 開発指標としての GNP から社会指標への転換

【資本主義と開発】

近代化論→工業化→社会変化（外からの介入による）市場における政府と外部の役割（5つの異なる立場）

- ① **介入主義**：経済成長の推進方法において公的機関、特に政府の役割を重視。富の分配において政府が市場の失敗を補完。経済成長し、社会の近代化には公益性の確保のため政府が市場を制御することが望ましい。
- ② **新自由主義**：経済を成長させたり活性化させたりするためには市場に任せるのが一番。「見えざる手」にまかす。
- ③ **マルクス主義**：Karl Heinrich Marx（1818－83）が資本主義を産業資本家と言う特定の人のための階級社会であると見た見方を基本的に継承。経済活動にも総合的改革を導入し、経済成長を促し、近代化促進。その過程で、政府が積極的に社会変革に関与することで平等性を確保（大きい政府はこの目的のため正当化される）。
→**従属理論**：マルクス主義の流れを受け継いだ Dependency theory. 世界は発展する中心諸国と取り残された周辺諸国があり、前者は後者を搾取することで発展すると考えられた。そのため後者が発展するには国際システムから離脱することを主張。⁶
- ④ **新ポピュリズム**（Neo-populism）：市場を中心とした開発を否定し、人間中心の開発を模索。
- ⑤ **脱開発論**（post-development）
開発そのものを否定。開発主義の失敗（ダム建設による強制的立ち退き、環境破壊）。

【5つのアプローチから包括的にとらえる】

理想的には、資本主義経済体制の利点である効率性と、それだけでは達成できない公益性、平等性、多様性を、例えば社会運動などの市場以外の仕組みによって補完する方法を考える必要あり。

→世界銀行『世界開発報告』：市場と政府の補完性を指摘＝二者択一構造から脱却（80年代以降）→200/01年報告書では①経済成長のための機会の活用と富の分配、②貧しい人の empowerment に資する制度の構築、③自然災害など各種リスクを抱える貧しい人々の保障の確保を提唱←1990年の報告書にあった労働集約的生産業の育成や消滅

⁵西川潤（1997）『社会開発』、有斐閣選書。

⁶ Frank, Andre Gunder (1978) *Development Accumulation and underdevelopment*, London: Macmillan. 邦訳、吾郷健二訳（1980）『従属的蓄積と低開発』岩波現代選書。

<政策フレームワーク・ペーパー>

構造調整政策を実施するために準備されたもの→援助受給国が準備するはずであったが、世銀と IMF が中心となって書かれることが多かった。

→PRSP では途上国自身が作成する→1999 年には政策フレームワーク・ペーパーは**廃止**

<貧困削減の新取り組み>

1. 世界銀行の『世界開発報告 2000/01』にみられる貧困削減についての国際的合意
2. 国レベルで貧困削減を実現する仕組みとしての貧困削減戦略文書(Poverty Reduction Strategy Papers: PRSP)
3. PRSP をより具体化するための援助実施メカニズムとしての中期支出枠組み(Mid-term expenditure frameworks: MTEFs)とセクター・ワイド・アプローチ (SWAPs)
4. 結果重視の管理方法への制約

原則：①当事国が作成、②結果を重視（どれだけ貧困を削減したかで評価）、③包括的であること（マクロ経済安定、構造調整政策、セクター改革は相互に関連して貧困削減につながるものが要）、④パートナーシップ（＝参加）、⑤長期政策であること（構造調整は 3 年単位に実施して短期高価だったため）、⑥政策への優先順位付け(社会的な生活水準の達成→マクロ経済安定→構造調整政策→法制度の整備→成長戦略→所得格差の是正)

特徴：①原則として途上国に主体性があること（Ownership）、②参加的手法により途上国内の幅広い意見を聞いたうえで割く際された合意であること、③そのため援助機関・先進援助国の支援を得やすいこと、④変化する国際情勢に対応すべく途上国への国際協力の道しるべとしての役割を担う。

<体系化された貧困削減の問題点>

1. 数値化された取り組み目標は分かりやすいが、数値化できない問題は取り組みから外れる。
→開発援助委員会 (DAC) の貧困 5 要素：①所得や資産などの経済面、②人権や自由といった政治面、③立場や威厳といった社会・文化面、④保健や教育といった人間面、⑤脆弱性への保障や保護面、をあげているが、政治面・文化面は数値化できない
2. 財政支出への関心は高められるべきだが、支出の目的のマクロ経済政策の健全性から注意がそれるべきではない
3. セクター別取り組みは、援助関係者の協調を可能にするが、横断的テーマへの対処が不十分になる危険性
4. セクターごとの援助調整は地方分権化と、実施のされ方によっては矛盾を包含

【21 世紀の開発と貧困】

グローバル化による南北問題解決の困難性が増大。

→途上国の出来事が先進国にもさまざまな形で跳ね返る

- 開発：①望ましい社会のあり方、②長時間かけて変化していく過程、③政府やそれ以外の組織が社会を意図的に変化させようとする行為⁷
- 国際社会が取り組むべき貧困：2000 年 9 月国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言＝**ミレニアム開発目標** (Millennium Development Goal: MDG)
- MDG＝途上国の貧困削減、保険・教育の改善等 8 つの目標を 2015 年までに達成すべきとする。特に 1 日 1 ドル以下の所得の人々を、1990 年を基準とし 2015 年までに半減させる(1990 年時には世界人口の 28%の約 12 億人)

【設問】

1. 経済成長と社会開発の違いとは何か。両者はいかなる関係にあるか。
2. ミレニアム開発目標のもつ意義と限界に関して考察しなさい
3. 世界銀行はどういった活動をしているか。

⁷ Thomas (2002)